

# 埼玉アートシアター通信

NO. 22

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2009.7-8月号

【NINAGAWA 千の目 まなざし】

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

女優

## 蜷川幸雄 × 鳳 蘭

SAITAMA ARTS THEATER  
15th  
ANNIVERSARY



SAITAMA  
ARTS  
FOUNDATION

(財)埼玉芸術文化振興財団

# INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.22 Jul. - Aug.

ESSAY 03 コンドルズ 埼玉公演2009新作『白と黒のナイフ』

## 田村 淳

PLAY 04 さいたまネクスト・シアター

## 『真田風雲録』

TALK 08 公開対談 NINAGAWA 千の目 第18回 蜷川幸雄×

## 女優 鳳 蘭

SPECIAL 10 夏休みこども特集

埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラバンド!  
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル!  
熊谷会館バレエ・セミナー  
劇場体験ツアー

DANCE 12 バレエ・リュス

バレエ・リュス展 ~結成100周年、ダンスの改革者たち~  
NEO BALLET × ニジンスキー

DANCE 14 ローザス 『ツァイトウング Zeitung』

MUSIC 16 小山実稚恵 インタビュー

MUSIC 18 村治佳織 ギター・リサイタル

20 EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION

イベント・カレンダー 2009.7.15-2009.9.30 / 前売りチケット発売情報 (~2009.9.15) / 発売中公演情報

23 THEATER BRIDGE

募集など劇場からのご案内

24 劇場に遊ぶ、劇場で出会う

表紙:兵庫県立芸術文化センター薄井塞ニバレエ・コレクションより『牧神の午後』のバクストによる衣裳デザイン

編集:佐藤優 ©(財)埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.JULY 2009 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

No.22

©宮川舞子 ©蔵原理人 ©taro ©加藤英弘 ©Nijinsky ©Danny Willems ©Herman Sorgeloos ©Herman Sorgeloos ©Herman Sorgeloos ©相田敦史 ©KiyotakaSaito



〔構成・映像・振付〕近藤良平  
〔出演〕青田潤 石海聡 オクダサトシ 藤山康晴 鎌倉道彦 古賀剛 小林誠作 田中たつろう 橋爪利博 藤田善宏  
5月23日(土) 24日(日) 影の国さいたま芸術劇場 大ホール

たむらあつし 1973年12月4日生まれ、山口県出身。田村亮とコンビ「ロンドンブーツ1号2号」を結成。コンビとしてバラエティー番組で活動するほか、NHK大河ドラマ「功名が辻」などで役者として、文化放送「ロンドンブーツ1号2号」で社会情報番組のパーソナリティに挑戦するなど、マルチな活躍を見せている。ロンドンブーツ1号2号「クワイア」(論議ブーム)を毎月渋谷タワレコにて開催中! 詳しくはこちらへ www.londonb.net

コンドルズ 埼玉公演2009新作『白と黒のナイフ』 5月24日公演より

## 田村 淳

僕はコンドルズの公演を観る度にコンドルズに嫉妬します。というのも、舞台上で繰り広げられるパフォーマンスに毎回の事ながら『うわっやられた』とか『それやってみたい』と思わされるからです。ひとつひとつの場面の切り取り方とお客さんへのアプローチがいちいちかっこいい! おおざっぱなおじさんダンスユニットに見せかけて、すごく細やかな演出が施されていて、観てる人が自然とのめり込んでしまう演出が最高に心地いい! : : 本当に妬いてしまいます。

今回のコンセプト「白と黒」は、何気なく過ぎてく日常の中の白と黒だったり、自分自身の中に潜んでる白と黒だったり、様々な意味合いを持っていました。それに気がつく、コンドルズのメンバーの一举手一投足気になってきます。あのダンスの振り付けにはどんな意味があるのだろうか? このコントのホントに伝えたいことはなんなのだろうか? 影でダンスを見せる真意は何か? 気づくとかにかく五感をフルに使って楽しんでるのです。公演を観て楽しんだだけで得た気分になるのに、さらに知的になった気分やセンスがよくなった気分や説明しきれない色々な物をコンドルズメンバーから舞台を通じて授かった気持ちになれるのです!

日本が世界に誇れるエンタテイメント集団でありながら進化し続けるおじさん達の姿を見るとにかく血が騒いでいきます。僕の拙い文章ではコンドルズの魅力を語り尽くせませんが、まだ目にした事のない方は一度是非ご鑑賞ください! 僕の書いた文章に必ず共感できるはず。メンバーの皆さん次回も楽しみにしています。

# 真田風雲録

## Saitama Next Theatre



彰の国さいたま芸術劇場に新たな演劇集団が誕生する。  
その名も、さいたまネクスト・シアター。  
次代の演劇界を担う原石のような44人の俳優たちと、  
芸術監督蛭川幸雄が真っ正面からぶつかり合う刺激的な試みだ。  
新演劇集団が演じるは1960年代の傑作中の傑作『真田風雲録』。  
作者の福田善之、音楽の朝比奈尚行に特別取材、  
ほかにも“真田関連情報”満載の読み切り企画の4ページ、お楽しみに。

### さいたまネクスト・シアター いよいよ始動。

## 1 福田善之『真田風雲録』を語る

60年代はじめ、演劇界に一つの傑作が生まれた。それが『真田風雲録』。真田幸村と真田十勇士の活躍と挫折を描いた歌入りの娯楽劇。それまでの「新劇」の概念を打ち破る画期的な作品は、その後の演劇に計り知れない影響を与えている。ロックやブルースもある多彩な音楽と、風刺の効いたユーモアは、今もお色あせることなく輝いている。

取材・文=沢美也子



## 「てんでカッコよく死にてえな ぱッ」



© 蛭川幸雄

最初は30分のラジオドラマ、テレビドラマになって45分、舞台化に当たって3時間、『真田風雲録』は、段階を経て成長した。

大阪労演からの提案で俳優座系スタジオ劇団(青年座、三期会ほか)の合同公演として千田是也さんの演出で、という企画でした。3時間にするのは大変でしたけれどね。でも、これはきっとボツになるだろうと覚悟していましたから、くっく自分で笑いながら書いてました。新劇界全体としては真面目ですから、無理だろうと思っていたわけです。ところが、千田さんは即座にOKをくれた。千田さんの感覚としては「60年安保の後、反動のように頭の硬いものがしゃり出ているから、こういうデタラメな芝居があってもいい」と思ったのではないのでしょうか。「真面目な」新劇に異を唱えるなどということではなく、好きなように書いていただけですけど、その前に書いた「遠くまで行くだ」が、真面目筋からは攻撃されてましたから、ちょっと居直ってはいましたね(笑い)。

千田さんは、音楽は任せるということだったので、林光さんと僕で、いろいろな仕立ては勝手にやりました。全部で11曲ありますが、当時としては珍しいでしょうね。そのころは、ミュージカルと付けると客が入らないと言われていて、他でも「音楽劇」と言っていました。

古典的なドラマトルギーにとられない作劇は、新鮮な驚きで迎えられた。

この手の芝居がすぐに広まったわけではないんですよ。10年くらい逆に冷え込んだ。ミュージカルという言葉についても、僕が演出した『にんじん』は最初「音楽劇」と言っていました。だから、固定観念のようなものは、1作くらいでは変わらないものなんです。

でも、かえて気楽な時代でしたよ。望月六郎(真田十勇士の一人)がギターを持って出てくるだけで、観客は爆笑するわけ。もう、絵として不思議なわけですよ。何かという爆笑でしたから、役者としては楽だったんじゃないかな。

“ワッ、ワッ、ズンパバ”と掛け声が入る『真田隊マーチ』は一度聴いたら癖になる。

“ズンパバ”は僕が勝手に作った言葉で。そういうのが好きだったんですよ。今の時代にはどうなんだろうとも思いますけどね。なんだか古証文ばかり並んでいると思われないようにしてほしいですね。でも、青春劇的な部分もありますから、青春は別に時代に関係なく、変わらないものですから、(戯曲が)もたないとは思っていません。また、時代がぐるりと回って、過去のものか今、新しいと感じる、そういうサイクルもあるかなと思います。

蛭川さんにお任せするので、特に注文はあるはずもないのですが、カットしてほしいんですね。必要なら、僕がやりますよ。初演当時も、やってみて、すぐにカットしたシーンもあるのです。全部やっているわけではない。最近、リーディングの形でやった時は1時間半でした。それくらいでもできるのです。ただ、情熱の人だからね、蛭川さんは、全部やると言うかもしれない(笑い)。もともとが何でもありの作品ですから、自由にやってもらって、いい舞台になれば嬉しいですね。

### Profile

◎ ぶくだ よしゆき

劇作家・演出家。東大仏文卒。新聞記者を経て、劇作家木下順二・演出家岡倉士郎に師事。1957年『長い墓標の列』発表。60年、観世栄夫と劇団青雲に参加。「遠くまで行くだ」「オッペケペ」「捨巻はどこだ」などで、60年代演劇の旗手として注目される。93年、『壁の中の妖精』で紀伊國屋演劇賞受賞、94年『私の下町一母の写真』が第46回読売文学賞・文化庁芸術祭演劇部門大賞。2001年紫綬褒章。06年シナリオ功労賞ほか。シェイクスピア作品や『ピーター・パン』などミュージカルの演出、映画シナリオ『日本の悪霊』、テレビ大河ドラマ『風と雲と虹と』の脚本など。現在、日本演出者協会評議員、日本劇作家協会顧問。

「やりてえことをやりてえな わッ」

## 2 『真田風雲録』らすじのご紹介

慶長5年(1600年)関ヶ原。天下分け目の死闘の傍ら、姿を現す浮浪児たち。男とも女ともつかない汚い姿で、屍体から金品を奪って生活する彼らこそがのちの真田十勇士である。時は経て、関ヶ原後、長期的安定政権をめざす徳川家だが、周辺では大坂の豊臣家をはじめ、行きどころのない浮浪人たちが絶えず反旗を翻す機会を狙っていた。大仏鐘銘事件をきっかけに、徳川打倒を決めた豊臣方に加勢すべく、半ば浪人と化していた真田幸村を中心とする真田十勇士は、「カッコよく死ぬ」を合言葉に、奇襲戦法で出撃する。奇襲は成功するも、味方からは独断専行を咎められ、豊臣家を守るという大義名分のもと、戦いらしい戦いのないまま、穏便に和議が結ばれる。しかし、情勢は次第に不穏さを増し、遂に徳川家対豊臣家の最後の決戦へと突入していく――。

## 《下克上のブルース》

## 3 われらが“真田十勇士”とは……

- ◎穴山小助(介)… 甲斐国穴山村生まれ。10歳の時に幸村と初対面。のちに幸村の忠実な書生(秘書)。
- ◎海野六郎… 幸村の6人いる児小姓の筆頭格。顔立ちよく、家柄、武芸、学問、いずれも申し分なし。
- ◎猿飛佐助… ご存じ伊賀流忍術の遣い手。伊賀国下柘生まれ、5歳の頃から忍びの訓練をはじめた。
- ◎笈十蔵… 豊臣家の臣、蜂須賀正勝の家臣だった。父は、豊後国国崎(今の国東)郡富来2万石の城主。
- ◎三好清海入道… 細川家の守護代、三好三人衆のひとり三好筑前守之長の末裔、日向入道北斎の孫。
- ◎由利謙之助… 丹波国天田郡生まれ。金狐大明神を名乗り、生神様となって暮らしたことも。
- ◎根津甚八… 淡路島から阿波国沿岸を荒らす海賊弁慶丸を名乗る。六尺を超す美男子。
- ◎望月六郎… 熊野権現に仕える宮神楽師。新宮城主堀内安房守氏善の懐刀として海賊を自由に操る。
- ◎霧隠才蔵… 女好きのする男前の伊賀流忍者。忍びを悪用して諸国で女をたぶらかし、金をだましとる。
- ◎三好伊三入道… 清海入道の弟。比叡山延暦寺西塔で、武蔵坊弁慶の生まれ替わりと称する。

※参考:村上元三『真田十勇士』(学陽書房・人物文庫)

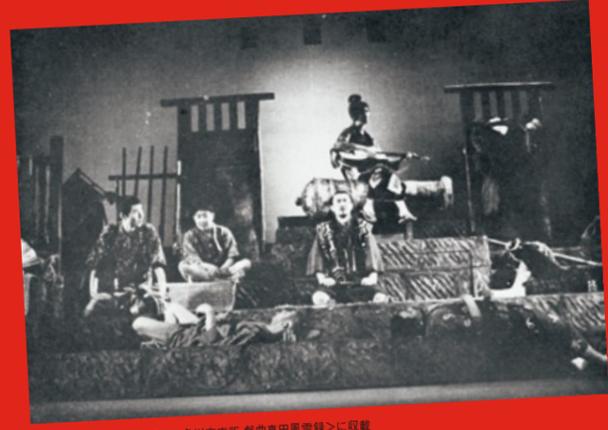
## 4 1962年『真田風雲録』初演

角川文庫版の『戯曲 真田風雲録』の解説に文芸評論家の故奥野健男がいきなり、こう書いている。「一九六二年四月、都市センターホールで上演された『真田風雲録』の舞台のたのしさは圧倒的だった。世の中にこんなおもしろい芝居があったのかと、ぼくたちは目を瞠り、夢中になって笑いこけ、手を拍いた。(以下略)」

それは、いわゆる“小劇場第一世代”(唐十郎、寺山修司、鈴木忠志、別役実、佐藤信、清水邦夫ら、故人となった寺山をのぞいては今も第一線で活躍。蛭川幸雄もそのひとり)が名乗りをあげる前夜。現代劇が「新劇」と呼ばれ、戦前の築地小劇場以来のまじめで重厚なリアリズム演劇万能の時代に、60年の安保闘争、学生運動の空気を読んだ『真田風雲録』が登場する。俳優座系スタジオ劇団の青年座、新人会、三期会、仲間、俳優小劇場の5劇団が合同で公演、当時すでに新人会の看板女優だった渡辺美佐子は「むささびのお霧」で出演、その才能が目玉された。ほかに森塚敏ら各劇団から選抜されたメンバーが出演。徳川安定政権にいたる変革期を時代背景としながら、十勇士の行動を通して、つい2年前の安保闘争を反映させた戯画ぶりに観客は大喝采。内容とともに、自分たちの言葉で叫び、ロックやブルース、バラードを大胆に取り入れた舞台は、数年後に続々と結成される早稲田小劇場、自由劇場、天井桟敷などの小劇場運動の確かで大きな指針になった。



角川文庫『戯曲 真田風雲録』



千田是也演出の初演の舞台<角川文庫版 戯曲真田風雲録>に収録

《龍城小唄(あなたなぜだか教えてよ)》

## 5 ぼくが《真田隊マーチ》を歌ったころ [音楽・朝比奈尚行]

今でも、♪織田のぶながの うたいけり〜 って、車運転しながら(真田隊マーチ)を口ずさんだりすることがあります。初演の時は中学生だったから観てませんが、大学の演劇科で誰かが『真田風雲録』をおもしろいからって、本を貸してくれたんです。時代は70年安保のちょっと前で、ぼくもそれなりに構内で学生運動のまねごとをしてましたから、「俺たちの心情そのものじゃん」みたいな感じで、いっぺんに気に入って、ほかの《佐助のテーマ》とか《籠城小唄》なんかも楽譜から起こして、仲間間で流行りました。



すごいポップなんですよ、何でもありの感じで。歌詞も「テンデかっこよく死にえな」とか、「いきがっていきえな」でしょ。でも幸村に「カッコ……悪い!」死に方をさせちゃうクールな状況認識もあって。実際70年ころのぼくらの状況も、かなり厳しいものではありました。そんななかで、まだ自己表現までいかないけど、自己顕示ができればいい、自分自身が名乗りをあげられればいいみたいな思いがあって、それが『真田風雲録』にはありました。戯曲の根底にある気分まさに惹かれたというか、普遍性のある青春ドラマみたいで、あの気分の延長線上に今の僕があるみたいな。で、今度、その林光さんの名曲をリニューアルする役割なわけですから、大緊張しています。(談)

## 6 映画にもなった『真田風雲録』(1963年)

ラジオドラマに始まり、テレビドラマ、舞台ときて、『真田風雲録』旋風はスクリーンにも登場。宇宙から降ってきたいん石の放射能の影響を受け、不思議な能力を身に付けた浮浪児の佐助が成長して猿飛佐助に……と、これだけ読んで、この映画がどんなに奇想天外な内容か、わかってしまうもの。佐助には、一世を風靡した中村錦之助(のちの萬屋錦之介)。監督は加藤泰。“東映時代劇のヌーベル・バーグ”とも言われたが、その型破りの発想が今日では“怪作”として語り継がれている。渡辺美佐子が舞台同様「むささびのお霧」を演じている。興味のある方はビデオでどうぞ。



ラッ、ワッ、ズンパ!

## 7 《第5のホール》が決戦の舞台



大ホールに小ホール、音楽ホール、そして映像ホールという国内でもトップクラスの4つのホールを有する彩の国さいたま芸術劇場に5つめのホールができる! 『真田風雲録』の上演にあわせ、福田善之戯曲を初演出する蛭川幸雄が企んでいる劇空間は、《第5のホール》と呼ぶ、まだ誰も観たことのない新空間。何と大ホールの舞台上に仮設劇場をつくり、熱い俳優たちがひしめきあう青春群像劇にふさわしい斬新なステージが繰り広げられる。

## 8 最強の無名戦士<さいたまネクスト・シアター>

今秋、初演以来47年の歳月を経て上演される蛭川演出による『真田風雲録』は、その戯曲のエネルギーそのままに、次代の日本演劇界を支えるであろう、名もなき44人によって演じられる。名付けて<さいたまネクスト・シアター>。この新演劇集団は、昨年上演した『ガラスの

仮面』で出会った若者たちに触発された蛭川幸雄が、「若手俳優育成プロジェクト」を立ち上げ、それに名乗りをあげた1,225名のオーディション応募者から選ばれた精鋭たち。もちろん、出陣までには蛭川の超激が彼らに浴びせられることだろうが、それに応えられる原石ばかり、きっと感性が研ぎ澄まされ、若さがいっぱいになることだろう。

さいたまネクスト・シアター『真田風雲録』  
 [日時] 10月15日(木)~11月1日(日) 全18公演  
 [会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール特設劇場  
 [作] 福田善之 [演出] 蛭川幸雄 [音楽] 朝比奈尚行  
 [出演] さいたまネクスト・シアター ほか  
 [チケット(税込)] 好評発売中  
 一般:3,800円 メンバーズ:3,500円  
 ※土日公演はポイント対象外となりますので予めご了承ください。

10月	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	11月	1
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	日
13:00																			
14:00																			
18:00																			
19:00																			

「さて、おれはまた、ひとりになったけど……また会うんじゃねえかな」

# 蜷川幸雄

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

YUKIO NINAGAWA × RAN OTORI

公開対談シリーズ第18回  
NINAGAWA 千の目

# 鳳蘭

女優



清水邦夫作『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』で、少女歌劇団の男役を演じた鳳蘭さん。宝塚時代の思い出そのもののような舞台を蜷川幸雄演出で再現され、万感の思いを込めての舞台でした。宝塚で培った演技術、この国で女優として生きることまでお話はひろがりました。

**蜷川(以降N)** 鳳さんと『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』という芝居をしています。こんなに素敵な女優さんに会うのは久しぶりです。ブロードウェイの女優と互角に勝負できる女優が日本にもいるのです。堂々として、格好よくて美しく、魅力的です。鳳さんは「戦前の男役スターは越路吹雪さんで、戦後は私よ!」と自分でおっしゃっていましたね。

**鳳(以下O)** 誰も言ってくれないから自分で言っているのですよ(笑い)。

**N** 少女歌劇を引退してもう一度蘇ってくるスターを演じていた

だいていますが、おもしろいのですか?

**O** すごくおもしろいです。洋物の和物芝居というか。

**N** 『ロミオとジュリエット』が劇中劇に出てきますが。

**O** 演じていてすごく気持ちがいいです。私はシェイクスピアに向いているのかしら。

**N** 向いている、いいと思う。古典的な言葉も自在に操るから、「うまいなあ」と。

**O** 宝塚で積み重ねた、封印された引き出しをいっぱい出せたので、すごくうれしいです。

ブロードウェイの女優と互角に勝負できる女優が日本にもいるのです。堂々として、格好よくて美しく、魅力的です。(蜷川幸雄)

## 少女歌劇の思い出が甦る稽古場

**N** スターとしての自信もあり、堂々としているね。

**O** これが気持ちいいのですよ。今回久しぶりに「ごきげんよう皆さん!」と言ったら、宝塚の大階段で下級生たちが見上げている場面がありありと甦って、100%その気持ちになれます。全部思い当たることなので、本を読んだその日から泣いたし、散り散りになった30人の劇団員が集まる場面はいまだに稽古場で泣いています。それぐらい全部経験したことが台本になっています。清水先生は何で少女歌劇の心理を知っているのですか?

**N** いま72歳の清水邦夫さんですが、とてもいい台本です。隅々まで女性のいろいろな気持ち、再会する不安や自負がよく分かっている。ディテールがすごくいい。

**O** セリフがきれいですよね。清水先生は、前世少女歌劇にいたのではないと思うくらいです。

**N** 鳳さんの時代でライバルはいたのですか?

**O** ライバルは、襟名由梨、汀夏子、安奈淳さんで、四大スターと言われました。

## 女優として、大人として、この国で生きること

**N** 鳳さんみたいに頭のいい女優さんばかりいると本当にいいのですけれど。「この人にちゃんとしてあげよう」とか、「次の舞台はもっといい役を用意してあげよう」と思わせるのは、人間の魅力や素直さです。演劇って人と人がコミュニケーションし合って動いていくのですから。芝居の中で鳳さんが、子どもの名を呼ぶところで、「親が娘を呼ぶ言い方、声だなあ」と思って。ニュアンスがいいんだよね、いろいろな経験が生きている。

**O** 子どもがいると自由に羽ばたけないではないですか。その意味で私は子どもがいてよかった。どこかに羽ばたいて行ったら帰ってこないタイプですから。

**N** 逸脱するところが鳳さんで(笑い)。逸脱が人間の幅を上げてくれたり、稽古場を自由な感じにしてくれています。本番は鳳さんが出てくるだけで空気が変わって、格好いいですよ。お客さんには鳳さんを見る喜びがあるので、堂々とたっぷりやってくれと。今度の舞台は年配の女優さんを中心に探しました。

**O** 平均年齢50歳ぐらいではないですか。

**N** ヨーロッパの女優さんはある年齢を重ねてもいい役がたくさんありますが、日本のように子ども中心の国はテーマの取り方が幼いですよね。この国で成熟し大人になっていくというのはすごく大変なこと。鳳さんは正しく生き延びています。舞台や映像も含めて強烈に演じてみたい願望ってありますか?

**O** 強烈にやってみたいのは『サンセット大通り』です。年老いた女



「雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた」(2009年5月Bunkamuraシアターコクーン) © 谷古正彦

優がいつまで経っても自分は女優だと信じたいという役を演じたい。夢で終わりそうですけど。

## 女役を美しく見せるのが男役冥利

**N** 鳳さんをみていると人を押し退けてまで、そこに出ていくことはないですね。

**O** どっちかという私は人がいっぱい出てきた方がうれしい。今回も三田(和代)さんが素敵に見えてほしい。だから一生懸命彼女がきれいに見えるようにしています。

**N** 男役が娘役の人を扱う手つきって鳳さんを見ているとすごく分かるんだよね。うまいし、やさしいし、やっぱりいいなあ。

**O** 女役の人が素敵に見えたらファンの人たちはみんな気持ちが女役になるんです。女役とキスシーンがあったら「悔しい!」と思う。それくらい自分が「鳳さんに大切にされている! 私は」とみんな幸せになる。だから女役をものすごく大切にします。

**N** 女扱いがうまいですね。僕は「鳳さんを大事にしなくては」と思った(客席から拍手)。それは人間の力と演技力なんだなあと思った。外国のいい女優たちと比べても、互角なんだよね。しゃしゃり出ない、この大らかな不思議な人間性、正しい年の老い方がいい。

**O** うれしいなあ。いつもお稽古が終わると制作の女の子が「制作が泣いちゃいけないんですけど!」とおおい泣いているんです。私も実は泣きそうなんです。

**N** そういう舞台になっています。これから僕は鳳さんの爺やになるつもりです。

**O** (笑い) ありがとうございます。



### Profile

**鳳 蘭** おおとり らん  
兵庫県神戸市生まれ。中華同文学校卒業後、宝塚音楽学校に入り1964年4月『花のふるさと物語』で宝塚歌劇団の初舞台を踏む。入団当時から生来のエキゾチックな美貌と容姿で一際目立つ存在であった。以来、星組の男役トップスターとして10年務め、1979年8月に惜しまれながらも退団。その後、ミュージカルを中心に数多くの舞台作品に出演、日本のミュージカル界を代表するエンターティナーである。今年5月には、蜷川幸雄演出の舞台『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』で主演を務めた。

# ワクワク ドキドキ

# 劇場で遊ぼう、体験しよう、 学んじやおう

夏休みこども特集  
Summer Vacation Special



いよいよ夏休み。彩の国さいたま芸術劇場をはじめ、埼玉会館、熊谷会館では、お子様を対象とした夏休みバージョンが揃いました。音楽やバレエに親しみ、劇場を探検する体験ツアーまで多彩なメニュー。みなさまのご来場をおまちしています。

SPECIAL 1

8/2

## 埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド!



©加藤英弘

### オーケストラをまるごと体験!

埼玉会館と熊谷会館で交互に開催している大人気企画「夏休みオーケストラランド!」。オーケストラをとことん楽しんでいただくこのコンサートは、毎年盛り沢山の内容でお届けしています。

恒例の参加企画、オーケストラと共演する「みんなで歌おう&演奏しよう!」では、好きな楽器または歌でみんなの大好きな曲を大合奏。当日参加者を抽選で選ぶ「指揮者にチャレンジ!」では、指揮の飯森範親さんの手ほどきを受けて、プロのオーケストラの指揮に挑戦していただけます。

もちろん、オーケストラの醍醐味を体感するコーナーもあります。今回お聴きいただくのはベートーヴェンの交響曲「運命」の第1楽章、ソリストに志木市の中学生 嘉村ゆりえさんを迎えてのモーツァルトのピアノ協奏曲「戴冠式」。その他、楽器紹介や名曲探しの作品など、お楽しみ満載のコンサートです。

飯森範親さんの指揮、朝岡聡さんのナビゲートで巡るオーケストラの世界。夏休みにはオーケストラの国へ!

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。

### 埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド!

【日時】8月2日(日) 開演 14:00 (16:00終演予定)

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】飯森範親(指揮) 朝岡聡(ナビゲーター) 嘉村ゆりえ(ピアノ) 東京交響楽団(管弦楽)  
【曲目】みんなで歌おう&演奏しよう! (歌や好きな楽器でオーケストラと共演)  
久石譲:『崖の上のポニョ』より 『崖の上のポニョ』  
ベートーヴェン:交響曲第5番 ハ短調 作品67 「運命」より 第1楽章 ほか  
※予定枚数終了いたしました。

SPECIAL 3

8/25

## 熊谷会館バレエ・セミナー

### バレエをもっと大好きに!

毎年好評の「熊谷会館バレエ・セミナー」。今年も小学校低学年から高校生までの小さなバレリーナたちが、本格的な指導を受けに熊谷会館に集まります。今年の講師は、パリ・オペラ座バレエをはじめとする世界のバレエ団やバレエ学校、ローザンヌ国際コンクールでも現代作品の指導をおこなう、国際的に活躍中のダンサー(振付家)中村恵恵さん。時代をリードする振付家たちと数多くの舞台をともにした中村さんから、バレエの基本テクニックからコンテンポラリー・ダンスまで、幅広い表現方法を学びます。

そして今年には特別に〈上級クラス〉を公開レッスン形式とし見学者を大募集! 一流の講師によるレッスンは見るだけで十分勉強になるもの。バレエを習っている子もいない子も、バレエがもっと大好きになること間違いなし! 今年の夏休みは熊谷会館で、バレエの新しい魅力を感じてみませんか。



©高橋くさ

DANCE

### 熊谷会館バレエ・セミナー

<ジュニアクラス1> <ジュニアクラス2> <上級クラス>

【日時】8月25日(火)~26日(水)

【会場】熊谷会館

【講師】中村恵恵 ※セミナー受講者の募集は終了いたしました。

### ◎上級クラス公開レッスン 見学者募集◎

【日時】8月26日(水) 15:30~17:00

【料金】無料

※申込方法は、P.23をご覧ください。



©NOMO

SPECIAL 2

8/22

## 光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル!

### オルガンと一緒にダンス! ダンス! ダンス!

ポジティブ・オルガン(移動可能なパイプオルガン)と歌や楽器のアンサンブルでおくりしている「光の庭プロムナード・コンサート」。

8月は親子で楽しめる特別企画として、オルガン×ダンスのコラボで実施します! 出演はオルガニストの大塚直哉さんと、ダンサーで振付家の熊谷乃理子さん。大塚さんのオルガンが響き、熊谷さんが会場を所狭しと踊れば、不思議と体もウズウズするはず。そんな皆さんのために、「みんなでダンス!」のコーナーも。家族やお友達と参加して、オルガンの音楽と一緒に楽しく体を動かしましょう! 当日は動きやすい服装で参加してくださいね。

また、コンサート終演後には、オルガン製作家マチュー・ガルニエさんによるワークショップを開催。オルガンの仕組みについてのわかりやすい解説を交えて、バラバラになったオルガンの部品を空っぽのケースの中に組み立てていきます。普段は見る機会のないパイプオルガンの内部を見られるチャンスです!



©加藤英弘

こちらの公演には年齢制限はありません。

### 光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル! ~オルガンと踊ろう!~

【日時】8月22日(土) 開演 14:00 (14:40終演予定)

※ワークショップはコンサート終演後(15:00頃)より1時間程度の予定です。

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ(1階)  
【出演】大塚直哉(オルガン) 熊谷乃理子(ダンス)  
ワークショップ:マチュー・ガルニエ(オルガン製作家)  
【曲目】ヘンデル:オペラ『リナルド』より「涙ながれるままに」  
『崖の上のポニョ』のメロディによる即興演奏 ほか  
【料金】無料



©加藤英弘

SPECIAL 4

8/27

## 劇場体験ツアー



©加藤英弘

### 親子で体験! 舞台の裏側はどうなってるの!?

“劇場”といえば、お芝居やダンス、音楽を楽しむための場所だと思いませんか? 彩の国さいたま芸術劇場は見て、触れて、感じることでできる劇場です。タネや仕掛けのたくさん詰まった劇場の舞台裏を親子と一緒に体感できるのが、「劇場体験ツアー」です。

お芝居や音楽会に欠かせない、照明や音響、そして舞台装置はどういう風につくられて、どんな風に動くのでしょうか? ツアーではみなさんが実際に手で触れて、動かしてみます。普段はめったに上がることのできない大ホールの舞台上に上がれば、客席からは違った面白さが見えてくるはず!

ツアーのメインイベントは、RONE & Gigi たちが繰り広げる楽しいお芝居。昨年の冬に大好評だった「リオとセサミのクリスマス」が夏バージョンとなって帰ってきます。

まだ「劇場体験ツアー」に参加したことのないみなさん! この夏、親子で劇場に触れてみませんか!? きっと新しい発見がありますよ。



©加藤英弘

OTHER

### 劇場体験ツアー

【日時】8月27日(木)~30日(日) 各日開演11:00 / 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【対象】小学生とその保護者

【定員】各回30名

【料金】500円(子ども・大人共通)

### ◎ツアー参加者募集◎

※申込方法は、P.23をご覧ください。

Ballet Russes + NEO BALLET

今に語り継がれているバレエ・リュス(ロシア・バレエ)の結成100周年にあたる今年、彩の国さいたま芸術劇場では盛大にバレエ・リュス展が開催される。バレエ・リュス展の企画監修にあたった、舞踊研究家の芳賀直子さんにバレエ・リュスへの熱い思いを中心に語っていただいた。

——芳賀さんはバレエ・リュス研究の専門家としてニジンスキーについての本を書かれたり、バレエ・コレクションのキュレーションをなさっています。パリに1909年に彗星のごとく現れたバレエ・リュスのどこに惹かれたのでしょうか。

芳賀：大学3年の時、私が好きだったラヴェルやドビュッシーなどの音楽家、ピカソやユトリロ、ミロなどの画家、コクトー、そして伝説のニジンスキーやバヴロヴァというダンサーたちがバレエ・リュスでつながっていることに気が付いたのが始まりです。あまりに豪華な顔ぶれがひとつのカンパニーで作品を作っていたことに驚き、信じられない気持ちでした。その関心が深くなったのはバレエ・リュスの作品が「バレエ」のパブリック・イメージとはまったく違っていても大きいと思います。例えば、バレエの基礎であるバ(ステップ)を否定することから始まった『牧神の午後』や『春の祭典』、ダンサーが登場しない『花火』、造形的すぎて踊れると思えないような衣裳の『道化師』。そうしたものが上演され、しかも観衆に受け入れられた20世紀初頭という時代も興味深いものでした。しかもそれがセルジュ・ディアギレフという一人の人間によって率いられていた劇場付でないインディペンデントなカンパニーだというのは想像を絶することで、興味が尽きることなく、気がついたらここまで来ていました。

——パリに初登場したバレエ・リュスは、芸術界のみならず社会的事件として大きな話題を巻き起こしました。

芳賀：パリのバレエが当時、芸術として見るには耐えられない状況になっていたことが背景として大きいでしょう。そこにパリからは野蛮とす

ら思われていたロシアから来たバレエ・リュスが非常に洗練された技術に基づいて、見たこともないような華やかな色彩に彩られた「芸術作品」を上演した。全ての要素が想像をはるかに超えたもので、観客はまず驚き、そしてそれに飛びついたのでと思います。『シェエラザード』に登場した極彩色のクッションが室内装飾として、ハーレムパンツやターバンがパリの社交界でもファッションとして大流行したほどです。



『シェエラザード』(ニジンスキー)  
© 兵庫県立芸術文化センター海井憲二バレエ・コレクション

——ニジンスキーの登場というのもセンセーショナルだったのではうね。

芳賀：男性スターも絶えて久しかったパリの観客は熱狂しましたよね。『ポロヴェツ人の踊り』の男性群舞もそうですが、男性ダンサーがバレエの舞台の中心に躍り出たのですから衝撃的でした。ニジンスキーは跳躍の名手でしたが、『薔薇の精』の中性的な踊りは男性舞踊手の概念をも変えました。今回「NEO BALLET×ニジンスキー」の演目として、バレエ・リュス後期のスターダンサーだったアントン・ドーリン直伝の版が復活します。ニジンスキーは振付家としても『春の祭典』や『牧神の午後』といった伝説的な作品を作りましたが、足を内向きにし頭をかかげたポーズや、古代ギリシャの壺絵に見られるような横向き動作のみで構成された振付は、バレエの根幹を揺るがすほどに革新に満ちたものでした。

——デビューから20年間、バレエ・リュスは舞台芸術の最前線で活動を続けたわけですが、他の芸術への影響はどうだったのでしょうか。

芳賀：冒頭にもあげましたが、バレエ・リュスには常に最先端のアーティストたちが関わっていました。とりわけ象徴的なのが、サティ(音楽)、コクトー(脚本)、ピカソ(舞台美術・衣裳)が一堂に会した『パレード』でしょう。1920年代に大流行するジャズを含めた米国文化を早くも一つの要素として先取りしています。パリのモダニズムが興隆をみる1920年代は、1917年の『パレード』から始まったとも言えます。

——100年の時を経て、バレエ・リュスは2009年のダンスにどのように息づいているのでしょうか。

芳賀：それは私の現在のコンテンポラリー・ダンスへの関心とつながっています。当時一番旬の芸術家同士の出会いで生まれたのがバレエ・リュスの作品でした。当時はバレエという言葉で呼ばれていましたけれども、革新的精神において現在のコンテンポラリー作品と同じ位置づけにあったと思います。私たちが例えば、ここさいたまで上演されるdancetodayの作品を楽しむにす気持ちと、当時の観客がバレエ・リュスの新作を楽しむにす気持ちというのは同じ質だと思います。9月に公演のdancetoday、そしてニジンスキーへのオマージュと再現上演による西島さんの公演、私もともに楽しみにしています。

●●●● EXHIBITION ●●●●

## バレエ・リュス展

～結成100周年、ダンスの改革者たち～

ピカソ、ストラヴィンスキーといった同時代の多くのアーティストを巻き込み、歴史に語り継がれる前衛的芸術集団でもあったバレエ・リュスの活動を、写真、パネル、舞台模型、プログラム複製などにより紹介し、当時を振り返り、今を考える機会としていきます。

【日時】7月29日(水)～10月12日(月・祝) 9:00～22:00(休館日除く)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 ガレリア ほか ※入場無料

◎ギャラリートーク バレエ・リュスからの100年と現在のダンスを追う◎

【日時】9月12日(土) 開演 17:30～19:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール ※入場無料・予約不要

【講師】海井憲二(社団法人日本バレエ協会会長) 芳賀直子

## Profile

芳賀直子(舞踊研究家/兵庫県立芸術文化センター海井憲二バレエ・コレクションキュレーター)  
バレエ史、特にバレエ・リュスとバレエ・スエドワを中心に、執筆、講演、展覧会企画監修等を手がける。今年にはバレエ・リュス関連の欧州行きも多い。  
著書に「ICON ～伝説のバレエ・ダンサー、ニジンスキー・妖像～」(講談社)

バレエ・リュスの伝説的作品が  
さいたまによみがえる!

舞台のみならず、TV・CM・ラジオ・モデルなど幅広く活躍の西島千博。彼が率いるNEOバレエ(Nishijima Entertainment Original Ballet)が、『薔薇の精』『牧神の午後』などの伝説的作品と新作を含めた演目で、バレエ・リュスへのオマージュとリスペクトを込めた記念公演を豪華キャストでお贈りします。



## Profile

西島千博

3歳よりクラシックバレエを始め、1990年渡仏。以後、世界各国の公演に多数参加。94年～05年スターダンサーズ・バレエ団に所属。2000年以降、ドラマ『池袋ウエストゲートパーク』、映画『るにん』に主演するなど、舞台だけではなく、TV・CM・ラジオ・モデルなど幅広く活躍。現在は、ダンサー、演出振付家として、NEOバレエ(Nishijima Entertainment Original Ballet)という新しい世界感のプロジェクトを展開している。

●●●● DANCE ●●●●

バレエ・リュス100周年記念  
NEO BALLET×ニジンスキー  
～千夜一夜 夢のプリンシパル・ガラ～

【日時】9月21日(月・祝) 開演 14:00 / 19:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【構成・演出】西島千博

【出演】西島千博 酒井はな 西田佑子  
松岡梨絵 橋本直樹 佐々木大 横関雄一郎 ほか【演目】『シェエラザード』『薔薇の精』『牧神の午後』『ライモンダ』『ジゼル』『遊戯』  
『春の祭典』ほか(新作含む)

【チケット(税込)】

一般・メンバーズ:SS席12,000円/S席10,000円/A席8,000円/学生席3,000円

【発売日】一般:7月17日(金) ※メンバーズ発売中

※本公演はポイント対象外

## Ballets Russes

伝説のバレエ・リュスに、  
彩の国で出会う

『薔薇の精』(ニジンスキー)  
© 兵庫県立芸術文化センター海井憲二バレエ・コレクション

# ローザスの 『ツァイトウング』を「聴く」

『ZEITUNG』 Choreography by Anne Teresa De Keersmaeker



ベルギーのカンパニー、ローザスの舞台は清新な驚きに満ちている。

ダンスと音楽の関係を多彩に追求してきたローザスが、

新作「ツァイトウング」でその関係性に揺さぶりをかけ、

さらなる新境地に挑んでいる。

文=長木誠司 [音楽評論家]

ローザスの活動は、これまでもさまざまな音楽とダンスとの出逢いを、あるいはすれ違いを確認させてきた。使われる音楽はバロックから最新の現代までさまざま、またこのグループは、ジャズ・アンサンブルのアカ・ムーン、そしてベルギー有数の現代音楽アンサンブル・イクトウスといった音楽家たちとのコラボレーション、複数の現代作曲家との新作によるコラボレーションなども行っている。

主宰者ケースマイケルが実現するダンスと音楽の関係は一様ではない。ダンスが音楽をなぞったり、音楽がダンスを伴奏したりといった安直なことは決して生じないのみならず、音楽がダンスを補完したり、コメントしたり、その逆ということすらない。両者は、ちょうどぬじれの位置にあるふたつの独立した線分のように、見ようによっては平行しているが、ほとんどの場合は無関係のようにも交叉しあっているようにも思われ、接近はするが、決して交わることもない。その接近の瞬間、やはり極度の緊張と興奮が訪れるが、それはやがて潮の引くように、ふたたび素っ気ないほどの関係に戻ってゆく。しかしながら、この変化する関係の満ち干、千変万化する関係の運動性こそ、ローザス本来の魅力なのだ。

今回、上演される新作の『ツァイトウング』では、J.S. バッハとアルノルト・シェーンベルク、アントン・ヴェーベルンの音楽が用いられている。ドイツの18世紀、そしてオーストリアの20世紀を代表する、いずれも多声法の大家であり、つまるところ性格の異なる複数の旋律を、ひとつの音楽の形へと統合する大家でもある。そこに共通性があるが、それは同時にローザスの複数のダンサーたちが、互いに取り合う態度・関係性でもあるだろう。強い関係と薄弱な関係、調和と矛盾、あるいは無関心さが同居する空間に、3人の作曲家たちの作品が散りばめられている。

しかしながら、ひとつのテーマ性が音楽からは感じられる。色彩と結晶という要素であり、これらは3人の作曲家のなかで、構想の中軸ないし発端に置かれているヴェーベルンに特有の語法ではあるものの、他のふたりとも関連が深い。20世紀前半を代表する無調音楽の、そして十二音技法の大家であるヴェーベルンは、師のシェーンベルクを超えて、結晶のように微細で冷ややかで透明感に溢れる精密な作品を作り続けた。また彼は、シェーンベルクが唱えた「音色旋律」という方法論の最大の具現者でもあった。音の高低によって旋律を作るのではなく、響きの色合いによって旋律を作ること。それを具体化したのが、作品6のオーケストラ曲であったり、あるいはシェーンベルクが作曲した《5つのオーケストラ作品》のなかの、その名も《色彩》

という1曲なのであるが、そのほか、ヴェーベルンはバッハの《音楽の捧げもの》のなかの《6声のリチエルカーレ》を、音色旋律の方法によって編曲している。

『ツァイトウング』では、こうした作品がすべて用いられており、それはバッハ〜シェーンベルク〜ヴェーベルンをつなぐ音の色彩の鮮やかな線が、あたかもヴェーベルンの音楽の創作史のなかを彷徨うような曲順——それは、ヴェーベルンの初期作《軽い小舟で逃れよ》や《パッサカリア》にはじまって、《リチエルカーレ》をクライマックスにし、ふたたび初期作を既視感のように残しながら終わる構成だ——によって展開する。ピアノ部分を実演するアラン・フランコも一役買っているのだろうが、曲の配置と組み合わせのみごとさ、論理性、センスの良さは、ケースマイケル独特のものだろう。ことに、バッハの《パルティータ》からシェーンベルクの《色彩》を経て《リチエルカーレ》に続くクライマックスで、9人のダンサーが次第に高揚を介して音楽に接近してゆく様子はスリリングこの上ない。そして、その直後に訪れるヴェーベルンの《葬送行進曲》によって示される、ブラックホールのような空虚感、その移ろいの素早さと鮮やかさは、誰の眼にも耳にも強烈な印象を残すに違いない。



©Danny Willems

## Profile

アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル  
ローザス芸術監督。モーリス・ベジャールのムードラ（ブリュッセル）、ティッシュ・スクール・オブ・アーツ（NY）で学ぶ。帰国後、最初の作品『ファーズ』を制作。1983年、ムードラで学んだ4人の女性ダンサーでローザスを結成し、『ローザス・ダンス・ローザス』でデビューを飾る。音楽と身体の構造的関係を探求しつづ常に刺激的な作品を発表し続け、名実共に世界をリードする。『ドラミング』、『レイン』、『ピッチェス・ブリュー』等、これまでのさいたま公演はどれも大きな反響を呼んだ。

## ●●●● DANCE ●●●●

### ローザス『ツァイトウング Zeitung』

【日時】11月27日(金) 開演 19:30 / 28日(土) 開演 16:00  
29日(土) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『ツァイトウング Zeitung』（2008年初演）

【コンセプト】アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル アラン・フランコ

【振付】アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル 【出演】ローザス(9名) アラン・フランコ(ピアノ)

【チケット(税込)】

一般:S席6,000円/A席5,000円/学生A席3,000円

メンバーズ:S席5,400円/A席4,500円

【発売日】一般:9月11日(金) メンバーズ:9月4日(金)

## 池田+プラテル+ヴォルドンク『ナイン・フィンガー Nine Finger』



©Herman Sorgeloos

アフリカの少年兵の目を通して戦争の過酷さを訴える小説をもとに、現代の世界が直面する課題、人類そのものの未来を痛切に問いかける。ローザスを代表するダンサー池田扶美代、フィジカルな俳優として注目を集めるベンヤミン・ヴォルドンク、Les Ballets C. de la B.を率いる振付家アラン・プラテルが出会い、実現した、過激にして慈愛に満ちた創造物。

## ●●●● DANCE ●●●●

【日時】2010年2月6日(土) 開演 16:00 / 7日(日) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『ナイン・フィンガー Nine Finger』（2007年初演）

【構成・演出・振付・テキスト】池田扶美代 ベンヤミン・ヴォルドンク アラン・プラテル

【出演】池田扶美代 ベンヤミン・ヴォルドンク

【チケット(税込)】一般:4,000円 学生:2,500円 メンバーズ:3,600円

【発売日】一般:9月11日(金) メンバーズ:9月4日(金)

『ツァイトウング』『ナイン・フィンガー』セット券  
S席9,000円/A席8,000円/学生A席5,000円



# 小山実稚恵

彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホールで、リサイタルだけでも11回、コンチエルト、室内楽でも14回の演奏で、開館以来ファンを魅了してきた小山実稚恵さん。この秋、その15年の軌跡を集約し、意欲的な特別プログラムを携えて、記念のリサイタルを行う。

## 開館15周年に特別な想いを込めてピアノに向かう

interview 取材・文=片桐卓也 [音楽ライター]

彩の国さいたま芸術劇場の開館15周年を記念して、小山実稚恵さんの特別リサイタルが開催される。小山さんにとって彩の国さいたま芸術劇場の音楽ホールはなにかと関わりの深いコンサートホールである。

「高校から大学時代に実は大宮に住んでいて、そこから上野まで通っていたんです。埼玉県民だったわけですね、学生時代は。チャイコフ

スキー・コンクール入賞後、1982年には埼玉会館(小ホール)で初のリサイタル、その後には協奏曲を演奏する機会も頂きました。また、彩の国さいたま芸術劇場がオープンするにあたっては、音楽ホールで使用するピアノ(スタインウェイ)の選定をさせて頂きました。現在もそのピアノが使われていますが、とても管理が徹底されているのでピアノの状態も良く、本当に嬉しいです」

# Michie koyama



### Profile

#### 小山実稚恵(ピアノ)

1982年チャイコフスキー第3位、85年ショパン第4位と日本人として初めて2大国際ピアノコンクールに入賞。2006年からは年2回ずつ12年間、24回リサイタルシリーズ「小山実稚恵の世界」に取り組み注目を集める他、ソロ・室内楽・オーケストラとの共演をはじめ、シリーズの企画・演奏でも高い評価を得ている。2010年1月にはシンフォニア・ヴァルソヴィアとの新CD「ショパン：ピアノ協奏曲第1番&第2番(仮題)」をリリース予定。05年度文化庁芸術祭音楽部門の大賞、05年第7回ホテルオークラ音楽賞受賞。

音楽ホールではソロ・リサイタルばかりではなく、室内楽シリーズも長く継続して来た。

「最初はピアノ・トリオをということで、豊嶋泰嗣さんと上村昇さんと3人で室内楽がスタートしました。それがきっかけとなって2001年にはブラームスの室内楽を演奏するプロジェクトが生まれ、その時に堤剛先生と堀米ゆず子さんに参加して頂きました。ソリストとして活躍されている方々と室内楽を演奏することも、自分にとっては大きな刺激になりましたし、たくさんの演奏家の方との共演は毎回充実していました」

と小山さん。客席数が600ほどで、客席の隅々までピアノシモの音が届くこの

音楽ホールはとても演奏しやすい場所だと言う。

「録音に使わせて頂いたこともあり、ピアノの響きがはっきりと自分の中でイメージ出来るホールです。聴衆の方々の反応もダイレクトに伝わって来ますし、演奏しがいのある場所ですね」

様々な想いの詰まったリサイタルは、開館15周年の演奏会のハイライトになりそうだ。

そればかりではなく、音楽的な影響も大きかった、と小山さん。

「諸井誠先生が館長を務められていて、様々な演奏会のお話を頂いたのですが、その度に、単にその時に演奏する作品だけでなく、その作品の背景、そして関連する作品などについても、いろいろと伺いました。それがとても勉強になったんですね。と言うのも、演奏家は楽譜を音にするという作業をしているので、どうしても楽譜だけに集中しがちなのです。でも、作品を演奏するには楽譜だけではなく、それ以外の部分の知識も必要なのだということを教えて頂きました。それがその後の演奏や自分自身の勉強にとっても大きな影響を与えてくださったと思います」

彩の国での小山さんの演奏会と言えば、やはり2002年から2004年にかけて行われた「スクリャービン&ラフマニノフ・シリーズ」が思い出される。

「特にスクリャービンのピアノ・ソナタを全曲演奏することはこれまで考えたこともありませんでしたから、自分にとっても挑戦となる企画でした。スクリャービンのソナタはとても個性が強いし、また非常に難曲でもあるのでプログラミングがなかなか難しく、演奏される機会も少ないんですね。自分でもスクリャービンのソナタを演奏するなら、どんな作品と組み合わせるか、いつも悩みます。それだけに、このシリーズで一挙にソナタを演奏出来た事はとても得難い経験だったと思います」

今回の15周年特別プログラムは、小山さんがそんな音楽ホールへの想いを込めて選んだ作品ばかりである。

「リストの《エステ荘の噴水》は、この音楽ホールでの最初の演奏会(1994年11月26日)で演奏した作品です。前半はそのリストを中心に、2010年で生誕200周年を迎えるショパンとシューマンを選んでいます。記念イヤーの予告編という感じでしょうか。後半には、思い出の深いスクリャービンとラフマニノフの中から選曲しました。ラフマニノフのソナタ第2番は改訂された1931年版を基に、1913年の初版からの音も少し付け加えてみようと考えています」

### ●●●● MUSIC ●●●●

#### 小山実稚恵 ピアノ・リサイタル

【日時】10月3日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】シューマン：アラベスク ハ長調 作品18  
ショパン：ノクターン 第20番 嬰ハ短調「レント・コン・グラン・エスプレッシオーネ」  
バラード第1番 ト長調 作品23  
リスト：愛の夢 第3番 変イ長調  
《巡礼の年 第3年》より《エステ荘の噴水》  
《バガニーニによる大練習曲》より《ラ・カンパネラ》  
スクリャービン：ピアノ・ソナタ第9番 作品68「黒ミサ」  
ラフマニノフ：前奏曲 ト長調 作品32-5  
前奏曲 ト短調 作品23-5  
練習曲集《音の絵》作品39より 第5番 変ホ短調  
ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調 作品36

【チケット(税込)】好評発売中

一般：S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,500円

メンバーズ：S席3,600円/A席2,700円

※A・学生A席 残席僅少

Kaori Muraji



日本での華やかなデビューのあと、  
若くして世界を舞台に活躍。  
近年はCMやナビゲーターに起用されるなど  
多方面で才能を発揮しているギタリスト、  
村治佳織が秋の彩の国に登場する。

# 村治佳織

無限の可能性はこれからこそ

文=濱田滋郎 [音楽評論家]

村治佳織について、“評論家として客観的に”書くことは、正直に申して、私にはかなり難しい。

彼女の父君、村治昇氏はギタリスト、そしてとくにギター教育家として著名な人。かつて私は1985年から20年間にわたり毎夏、八ヶ岳麓の清里で「スペイン音楽祭」を主宰、開催していたが、昇氏は第2回から欠かさずに参加され、ギター・アンサンブルの指導などもしてくださった。「佳織ちゃん」が、弟の奏一君(周知のとおり彼もこんにちギター演奏界の第一線で活躍中だ)ともども、お父さんに連れられて前述の催しに参加したのは、まだ8歳の頃。それからしばらく、「村治ファミリー」の演奏は“清里名物”のひとつであった。

程なく、まだ中学生のうちにギタリストとしてめきめきと頭角を現した佳織は、そのぶん多忙になり清里へは足が遠退いた。しかし、文字どおり幼い頃から知っている彼女の驚くばかりに——否、それは、見守る者にとってむしろ当然な流れとも思われたのだが——順調な成長ぶりをつぶさに見つづけ喜びとしてきたことは、隠しても仕方がないし、隠す必要もないであろう。

昇氏は、ある時期から愛娘を、福田進一という卓抜なギタリストかつ名教師のもとに委ねた。彼女が専属となったビクター・レコードの野島友雄ディレクターは、彼女をセンセーショナルかつコマーシャルに“売り出す”よりは、一步一步、芸術家として着実に成長させるような賢明な道程を選んだ。その結果が、日本人として初めて、英デッカの専属アーティストに選ばれるという幸運を彼女にもたらすことにもつながる。

そのように“恵まれた道”を彼女がたどって来られたのも、つまりは、実力が伴っていたからである。ごく“客観的に”言えることとして、彼女は、幼い頃から玩具のようにして楽器と親しみ、「物心ついた時にはギターが手の中にありました」と語る人ならではの、苦労の跡をとどめないほどのテクニックを身につけている。同様に、話し言葉に抑揚がつくのと同じだけの自然さで、彼女の奏でるものには音楽的ニュアンスの快さが具わっている。

と同時に、村治佳織の奏楽には「完全なもの冷たさ」がない。ギターは他のどんな楽器にもまして人間のこまやかな心情、哀歎のすべてを伝える楽器である。彼女の弾くギターからも、つねにそうした「人肌のぬくもり」が感じ取れる。別な言い方をすれば、「ギターという楽器は弾く人の人柄を表す」のであり、彼女のギターの「あたたかさ」も、当然、人となりから来ているものに違いない。

かつて彼女と共演したスペインのヴァイオリニスト=指揮者でホアキン・ロドリゴ(《アランフェス協奏曲》の作者)の娘婿、A・レオン=アラ氏が、つくづくと言われた——「カオリには、ある不思議な能力がある。彼女とオーケストラ団員のあいだには、すぐに、友達のような親しみが生まれるのだ。彼女のもつ独特な“親和力”にはいつも感動させられる」と。



彼女の音楽の根底にはそうした「あたたかさ」「素直な優しさ」があり、それ故に時には「もう一步の迫力」や「より大胆な表現」を望む声も受けたかもしれない。だが、スペインとの往來を重ねた数年を通じて、同国の音楽に欠かせないリズムの切れ、歌い回しの冴えを格段に高め、近年ではようやくJ.S. バッハに取り組んで「深み」の探求に成果を示しているように、彼女はまだまだ——根が素直で柔軟であるだけに——己の境地を掘り下げ、彼女なりの新たな美の世界を築き上げていくと思う。けっしてまだ「すべてにでき上がってしまった音楽家」ではない。彼女が「分身」として天から授かった楽器は、世間の常識にあるいは反するかも知れないが、「この上なく奥行き深い、一生かけて究めるべき楽器」なのである。村治佳織は、ある意味ではまだ生まれただけ。これからこそ、真の芸術家への道をたどる。逆に言えば、そのつねに失わない瑞々しさにこそ、彼女の魅力は宿っている。

## Profile

### 村治佳織

幼少の頃より数々のコンクールで受賞を重ね、15歳でリサイタルデビュー。その後、イタリアのオーケストラとの共演でヨーロッパデビューを飾り、97年にはパリのエコール・ノルマルに留学。03年には英国名門クラシックレーベル DECCA (デッカ) と日本人として初のインターナショナル長期専属契約を結ぶ。ラジオのパーソナリティを務めるなど、演奏活動以外の幅広い分野でも活躍中の、現在最も注目を集めているギタリスト。

## ●●●● MUSIC ●●●●

### 村治佳織 ギター・リサイタル

【日時】10月24日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】ブクステフーデ(ブリーム編曲):組曲 小短調 BuxWV 236  
J. S. バッハ(佐々木忠編曲):無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 二短調 BWV 1004

J. S. バッハ(ラッセル編曲):主よ、人の望みの喜びよ

ショパン(タレガ編曲):ノクターン 作品9-2

シューマン(セゴビア編曲):トロイメライ

メルツ:ハンガリー幻想曲 作品65-1、エレジー、

ウェーバーの主題によるカプリス 作品50

【チケット(税込)】

一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,500円

メンバーズ:S席3,600円/A席2,700円

※予定枚数終了いたしました。

EVENT CALENDAR 2009.7.15-2009.9.30

7 July	
15 水	EXHIBITION <b>さいたまゴールド・シアター写真展</b> (~7月26日(日)まで) 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 ※入場無料
16 木	
17 金	
18 土	PLAY <b>松竹大歌舞伎</b> 開演 12:30 / 17:30 会場 = 熊谷会館 ※詳細は P.22 にて MUSIC <b>バッハ・コレギウム・ジャパン</b> ヘンデル没後250周年記念特別プログラム 開演 15:00 ※詳細は P.22 にて
19 日	
20 月・祝	
21 火	
22 水	
23 木	
24 金	
25 土	MUSIC <b>光の庭プロムナード・コンサート ~放浪する音~</b> 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ※入場無料 出演 = 小野田良子(オルガン) 高木潤一(ギター) 曲目 = ガレスピー:チュニジアの夜 ほか
26 日	TALK <b>蜷川幸雄公開対談シリーズ NINAGAWA 千の目</b> 第19回 勝村政信×蜷川幸雄 開演 12:00 ※申込みは締め切りました
27 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
28 火	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
29 水	EXHIBITION <b>バレエ・リュス展 ~結成100周年、ダンスの改革者たち~</b> (~10月12日(月・祝)まで) 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 ※入場無料 ※詳細は P.12 ~ 13 にて
30 木	
31 金	
8 August	
1 土	
2 日	MUSIC <b>埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラ!</b> 開演 14:00 ※詳細は P.10 にて
3 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
4 火	
5 水	
6 木	
7 金	CINEMA <b>彩の国シネマスタジオ『青い鳥』</b> 上映時間 13:15 / 16:00 / 19:15 ※ 16:00上映終了後、教育関係者によるアフタートークがあります。 ※詳細は P.22 にて
8 土	CINEMA <b>彩の国シネマスタジオ『青い鳥』</b> 上映時間 10:00 / 13:25 / 16:10 / 19:35 ※ 10:00上映終了後、教育関係者によるアフタートークがあります。
9 日	CINEMA <b>彩の国シネマスタジオ『青い鳥』</b> 上映時間 10:00 / 13:05 / 16:10 / 19:15 ※ 13:05上映終了後、中西健二監督によるアフタートークがあります
10 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
11 火	
12 水	
13 木	
14 金	
15 土	
16 日	
17 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
18 火	
19 水	
20 木	

21 金	
22 土	MUSIC <b>光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル!</b> 開演 14:00 ※詳細は P.10 にて
23 日	TALK <b>蜷川幸雄公開対談シリーズ NINAGAWA 千の目</b> 第20回 麻実れい×蜷川幸雄 開演 12:00 ※詳細は P.23 にて
24 月	
25 火	DANCE <b>熊谷会館バレエ・セミナー</b> ※詳細は P.11 にて ※申込みは締め切りました
26 水	DANCE <b>熊谷会館バレエ・セミナー</b> ※上級クラス公開レッスン見学者募集中(申込方法は P.23 にて)
27 木	OTHER <b>劇場体験ツアー</b> 開演 11:00 / 15:00 ※詳細は P.11、P.23 にて
28 金	OTHER <b>劇場体験ツアー</b> 開演 11:00 / 15:00
29 土	OTHER <b>劇場体験ツアー</b> 開演 11:00 / 15:00
30 日	OTHER <b>劇場体験ツアー</b> 開演 11:00 / 15:00
31 月	

9 September	
1 火	
2 水	
3 木	
4 金	CINEMA <b>彩の国シネマスタジオ『カルメン』</b> 上映時間 13:00 / 18:30 ※詳細は P.21 にて
5 土	CINEMA <b>彩の国シネマスタジオ『カルメン』</b> 10:00 / 14:20 / 18:40 MUSIC <b>ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.10 三浦友理枝</b> 開演 14:00 ※詳細は P.22 にて 臨時休館日(埼玉会館)
6 日	CINEMA <b>彩の国シネマスタジオ『カルメン』</b> 上映時間 10:00 / 14:20 / 18:30
7 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
8 火	
9 水	
10 木	

11 金	DANCE <b>dancetoday 2009</b> 開演 19:30 ※詳細は P.22 にて
12 土	DANCE <b>dancetoday 2009</b> 開演 15:00 TALK <b>バレエ・リュス展 ギャラリートーク</b> 開演 17:30 ※詳細は P.12 ~ 13 にて
13 日	DANCE <b>dancetoday 2009</b> 開演 15:00
14 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
15 火	
16 水	
17 木	
18 金	
19 土	臨時休館日(埼玉会館)
20 日	
21 月・祝	DANCE <b>NEO BALLET × ニジンスキー</b> 開演 14:00 / 19:00 ※詳細は P.12 ~ 13 にて
22 火・祝	
23 水・祝	
24 木	
25 金	

26 土	MUSIC <b>光の庭プロムナード・コンサート 南ドイツの秋~動物たちと共に~</b> 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ ※入場無料 出演 = 川越聡子(オルガン) 廣海史帆(バロック・ヴァイオリン) 曲目 = J. バッヘルベル:目覚めよ、わが心よ ほか
27 日	PLAY <b>源氏語り五十四帖 第51回「浮舟2」</b> 開演 14:00 ※詳細は P.22 にて
28 月	臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
29 火	
30 水	

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報 (~2009.9.15)

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『カルメン』  
愛に生きるより、恋に狂いたい!  
ウィーン・フィル&カラヤンが、  
ベストキャストで贈る伝説の映画化作品!



チケット発売日  
一般・メンバーズ: 7月15日(水)  
日時 = 9月4日(金) 13:00 / 18:30  
5日(土) 10:00 / 14:20 / 18:40  
6日(日) 10:00 / 14:20 / 18:30

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 指揮・映像監督 = ヘルベルト・フォン・カラヤン  
演奏 = ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 合唱 = ウィーン国立歌劇場合唱団  
出演 = グレース・バンブリー ジョン・ヴィッカーズ フスティアーノ・ディアス  
ミレラ・フレネニ ほか  
舞踊 = マリアンマ&スペイン舞踊団 (オーストリア/1967年/160分)  
料金 = 一般:前売2,300円/当日2,500円  
メンバーズ・シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売/当日2,000円

DANCE

バレエ・リュス100周年記念 NEO BALLET × ニジンスキー  
~千夜一夜 夢のプリンシパル・ガラ~

チケット発売日 一般: 7月17日(金) ※メンバーズ発売中 詳細は P.12 ~ 13 にて

CINEMA

彩の国シネマスタジオ 熊谷会館上映会

『アラビアのロレンス』  
映画史に燦然と輝く、壮大なスペクタクルの  
歴史映画。アカデミー賞7部門を制覇した  
名作がニュープリント完全版で復活。



チケット発売日  
一般・メンバーズ: 7月24日(金)  
日時 = 10月23日(金) 12:00 / 17:20

会場 = 熊谷会館 監督 = デビッド・リーン 音楽 = モーリス・ジャール  
出演 = ビーター・オトゥール アレック・ギネス オマー・シャリフ ほか  
(アメリカ・イギリス/1989年/227分)  
料金 = 一般:前売1,800円/当日2,000円 小中高生:前売1,000円/当日1,200円  
メンバーズ・シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売/当日1,500円

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『禅 ZEN』  
乱世の鎌倉時代 一すべての人々を支え続けた  
孤高の人・道元禅師。  
750年の時を超え、今蘇る感動のものがたり。



チケット発売日  
一般・メンバーズ: 7月24日(金)  
日時 = 10月9日(金) 14:10 / 18:30  
10日(土) 10:30 / 14:20 / 18:30  
11日(日) 10:30 / 14:20 / 18:10

※9日(金) 14:10上映は、音声ガイドがつきます。イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。 ※10日(土) 14:20上映終了後、石子順氏によるアフタートークがあります。  
会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督・脚本 = 高橋伴明 原作 = 大谷哲夫  
出演 = 中村勘太郎 内田有紀 藤原竜也 村上淳 ほか (日本/2009年/127分)  
料金 = 一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円  
シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売・当日1,000円

【チケットの購入方法について】

財団チケットセンター 8月1日から電話番号が変わります。

0570-064-939

※一部携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

MUSIC

小澤征爾 & 新日本フィルハーモニー交響楽団

「世界のオザワ」が新日本フィルとともに12年ぶりに  
埼玉会館に登場! 上原彩子との共演も楽しみです。



©Shintaro Shiratori

チケット発売日  
一般: 9月12日(土) メンバーズ: 8月29日(土)

日時 = 12月8日(火) 開演 19:00

会場 = 埼玉会館 大ホール  
曲目 = ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第1番 八長調 作品15  
ブルクナー:交響曲第3番 二短調「ワーグナー」  
出演 = 小澤征爾(指揮) 上原彩子(ピアノ) 新日本フィルハーモニー交響楽団  
料金 = 一般: S席14,000円/A席12,000円/B席9,000円/学生B席4,000円  
メンバーズ: S席12,600円/A席10,800円/B席8,100円  
※本公演はポイント対象外となりますのでご了承下さい。

CINEMA

彩の国シネマスタジオ  
県民の日『“生きる”ということを考えるドキュメンタリー  
作品特集』

「こころの病」と向き合う  
人々を描く『精神』、  
生命の尊さを描く『いのちの作法』。  
「今」を見つめるドキュメンタリー特集。



©記録映画「沢内・いのちの作法」制作推進委員会

チケット発売日  
一般・メンバーズ: 9月4日(金)

日時 = 11月13日(金) 11:50A / 15:15B / 18:45A  
14日(土) 10:00B / 13:05A / 16:05B / 19:05A  
15日(日) 10:30B / 13:50A / 17:45B  
A:『精神』 B:『いのちの作法』

※13日(金) 15:15上映終了後、『いのちの作法』小池征人監督によるアフタートークがあります。  
※15日(日) 13:50上映終了後、アフタートークがあります。  
会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
A:監督 = 想田和弘(2008年/アメリカ/日本/135分)  
B:監督 = 小池征人(2007年/日本/107分)  
料金 = 一般:前売1,200円/当日1,400円 小中高生:前売800円/当日1,000円  
シニア券(60歳以上、障がい者の方):前売・当日1,000円  
2作品セット券: 一般:前売2,200円/当日2,600円  
小中高生:前売1,400円/当日1,800円  
シニア券(60歳以上、障がい者の方):1,800円

DANCE

ローザス『ツァイトウング Zeitung』

チケット発売日 一般: 9月11日(金) メンバーズ: 9月4日(金)  
詳細は P.14 ~ 15 にて

DANCE

池田+プラテル+ヴォルドンク

『ナイン・フィンガー Nine Finger』

チケット発売日 一般: 9月11日(金) メンバーズ: 9月4日(金)  
詳細は P.14 ~ 15 にて

【窓口営業時間】 ●彩の国さいたま芸術劇場 10:00 ~ 19:00 ●埼玉会館 10:00 ~ 19:00 ●熊谷会館 10:00 ~ 17:00 (休館日を除く)  
※インターネット販売及び他購入については、財団ホームページ <http://www.saf.or.jp> まで

発売中公演情報 (2009.7.15 ~)

PLAY

松竹大歌舞伎

日時 = 7月18日(土) 昼の部12:30 夜の部17:30 会場 = 熊谷会館  
 出演 = 片岡仁左衛門 ほか 演目 = 「正札附根元草摺」 「義経千本桜」  
 料金 = 一般・特等席 6,000円 / 一席席 2,000円 / 一学生席 1,000円 / おためし席 1,000円  
 メンバース: 特等席 5,400円

源氏語り五十四帖 第51回「浮舟2」

日時 = 9月27日(日) 各回開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 出演 = 幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:上智大学教授)  
 料金 = 全席指定 2,500円

さいたまネクスト・シアター 『真田風雲録』

詳細は P.4 ~ 7にて

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~林家たい平

詳細は下枠にて

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『青い鳥』

日時 = 8月7日(金) 13:15 / 16:00 / 19:15  
 8日(土) 10:00 / 13:25 / 16:10 / 19:35  
 9日(日) 10:00 / 13:05 / 16:10 / 19:15

※8/7(金) 13:15上映回は、音声ガイドがつかず。イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。  
 ※8/7(金) 16:00、8/8(土) 10:00上映回終了後、教育関係者によるアフタートークがあります。  
 ※8/9(日) 13:05上映回終了後、中西健二監督によるアフタートークがあります。

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
 監督 = 中西健二 原作 = 重松清  
 出演 = 阿部寛 本郷奏多 伊藤歩 井上肇 ほか (2008年 / 日本 / 105分)  
 料金 = 一般: 前売 1,200円 / 当日 1,400円 小中高生: 前売 800円 / 当日 1,000円  
 シニア券 (60歳以上、障がい者の方): 前売 / 当日 1,000円

DANCE

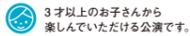
dancetoday2009

日時 = 9月11日(金) 開演 19:30 12日(土) 開演 15:00  
 13日(日) 開演 15:00

会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 演目・振付・出演  
 「trio ~ (シアン)の告白」より抜粋 unit:Cyan (金森稔 井岡佐和子)  
 「Le droit de rêver 夢みる権利」 廣田あつ子 x 中村恩恵  
 「イキ、シ、タイ」 C/Ompany (大植真太郎 柳本雅寛 平原慎太郎)  
 料金 = 一般: 5,000円 メンバース: 4,500円

公演詳細は、財団ホームページ

<http://www.saf.or.jp>にて



SPECIAL PICK UP

林家たい平が自信をもって  
おすすめする若手落語家たちと競演!

秋の四季彩亭は、笑点でおなじみ秩父を愛する落語家・林家たい平と、たい平がおすすめする期待の若手落語家たちの競演です。落語界きっての大きな声が自慢で桶川市出身の三遊亭遊馬、古典落語を得意とし大分県民の気質を活かしたほのぼの落語の確立を目指す三遊亭歌奴、期待の二ツ目桂三木男が登場。もちろんたい平も高座に上がります。埼玉県民の日、四季彩亭ならではの特別公演にどうぞご期待ください。



©加藤英弘

MUSIC

バッハ・コレギウム・ジャパン  
ヘンデル没後250年記念特別プログラム

日時 = 7月18日(土) 開演 15:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 出演 = 鈴木雅明 (指揮&オルガン) 松井亜希 (ソプラノ)  
 バッハ・コレギウム・ジャパン (合唱・管弦楽) ほか  
 曲目 = ヘンデル: 合奏協奏曲 HWV318 「アレクサンダーの饗宴~音楽の力」  
 オルガン協奏曲 ト短調 作品 4-1 HWV289 ほか  
 料金 = 一般: S 席 7,000円 / A 席 6,000円 / 学生 A 席 2,500円  
 メンバース: S 席 6,300円 / A 席 5,400円

埼玉会館ファミリー・クラシック

夏休みオーケストラ!

詳細は P.10にて ※予定枚数終了いたしました。

ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.10 三浦友理枝

日時 = 9月5日(土) 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 曲目 = ショパン: 4つのマズルカ 作品 68 シマノフスキ: 仮面 作品 34 ほか  
 料金 = 一般: S 席 3,500円 / A 席 2,500円 / 学生 A 席 1,000円 メンバース: S 席 3,150円

小山実稚恵 ピアノ・リサイタル

詳細は P.16 ~ 17にて

村治佳織 ギター・リサイタル

詳細は P.18 ~ 19にて ※予定枚数終了いたしました。

埼玉会館ランチタイム・コンサート

第9回 古部賢一(新日本フィル首席) オーボエ・リサイタル

日時 = 10月27日(火) 開演 12:10 (終演予定 13:00)  
 会場 = 埼玉会館 大ホール 料金 = 全席指定 1,000円  
 曲目 = エルガー: 愛のあいさつ サン = サーンズ: オーボエ・ソナタニ長調 ほか

ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.11 福間洸太郎

日時 = 11月28日(土) 開演 14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 曲目 = J. S. バッハ: 〈フーガの技法〉より バラキレフ: イスラメイ ほか  
 料金 = 一般: S 席 3,500円 / A 席 2,500円 / 学生 A 席 1,000円 メンバース: S 席 3,150円

レ・ヴァン・フランセ

日時 = 12月5日(土) 開演 15:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 出演 = エマニュエル・バユ(フルート) フランソワ・ルルー(オーボエ) ホール・メイエ(クラリネット)  
 ラドヴァン・ヴラトコヴィチ(ホルン) ジルベール・オダン(バソン) エリック・ル・サージュ(ピアノ)  
 曲目 = ラヴェル: クープランの墓 ブーランク: 六重奏曲 ほか  
 料金 = 一般: S 席 5,000円 / A 席 4,000円 / 学生 A 席 2,000円  
 メンバース: S 席 4,500円 / A 席 3,600円 ※残席僅少

●●●● PLAY ●●●●

彩の国さいたま寄席 四季彩亭  
~林家たい平とおすすめ若手落語会

【日時】 11月14日(土) 開演 16:00  
 【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 【出演】 林家たい平 三遊亭遊馬 三遊亭歌奴  
 桂三木男 翁家和助(曲唄)  
 【チケット(税込)】 好評発売中  
 一般: 3,000円 メンバース: 2,700円  
 ゆうゆう割引(学生・65歳以上): 2,000円

information インフォメーション

見学者募集 中村恩恵による熊谷会館バレエ・セミナー  
(上級クラス公開レッスン)

【日時】 8月26日(水) 15:30 ~ 17:00  
 【会場】 熊谷会館 【料金】 無料 ※未就学児の入場はご遠慮ください。



©高崎ちぐさ

【申し込み方法】  
 必要事項をご記入の上、ハガキまたはFAXにてお申込みください。  
 入場券を発送いたします。

- 記入事項 ①郵便番号・住所 ②氏名(フリガナ)
- ③電話番号・メールアドレス ④年齢 ⑤希望人数
- 申込み締切 8月15日(土) 必着
- 申込み先 〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1  
 (財)埼玉県芸術文化振興財団 「熊谷会館バレエ・セミナー8/26見学受付係」 Fax.048-858-5515
- 問合せ先 事業部 舞踊担当 tel.048-858-5506

参加者募集 親子で舞台裏を体感できる「劇場体験ツアー」

【日時】 8月27日(木) ~ 30日(日) 各日開演 11:00 / 15:00  
 【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 【対象】 小学生とその保護者

※原則として未就学児童のご参加はご遠慮ください(有料託児サービスあり)。 ※小学3年生未満のお子さまには必ず保護者をご同伴ください。 ※親子で一級にお楽しみいただくツアーです。高学年のお子さまの場合でも、できるだけ保護者の方が一緒にご参加ください。

【日時】 各回30名(申込み多数の場合は抽選)  
 【料金】 500円(子ども・大人共通/当日精算のみ)



©加藤英弘

【申し込み方法】  
 申込み用紙(財団ホームページ<http://www.saf.or.jp/> からダウンロードできます)に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXいただくか、彩の国さいたま芸術劇場窓口にてお申込みください。参加証の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます。

- 申込み締切 7月31日(土) 必着
- 申込み先 〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1  
 (財)埼玉県芸術文化振興財団 「劇場体験ツアー係」 Fax.048-858-5515
- 問合せ先 彩の国さいたま芸術劇場 tel.048-858-5511

ACCESS MAP アクセスマップ

彩の国さいたま芸術劇場



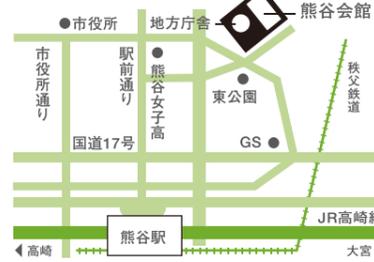
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1  
 電話: 048-858-5500 (代) ファックス: 048-858-5515  
 電車でのアクセス JR 埼京線与野本町駅(西口) 下車 徒歩7分  
 バスでのアクセス JR 北浦和駅から西武バス大久保行き  
 「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4  
 電話: 048-829-2471 (代) ファックス: 048-829-2477  
 電車でのアクセス JR 京浜東北線浦和駅(西口) 下車 徒歩6分

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2  
 電話: 048-523-2535 ファックス: 048-523-2536  
 電車でのアクセス JR 高崎線熊谷駅(北口) 下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

「簡単」・「早い」インターネットチケット購入

- Point 1 時間を気にせずいつでもアクセス(24時間受付)
- Point 2 メルマガで公演情報をいち早くキャッチ
- Point 3 気になる公演の空席状況をチェック
- Point 4 WEB 先行販売で良席確保(一部公演のみ)
- Point 5 キャッシュレスでらくらく購入

- Point 6 購入チケットは自宅へお届け
- Point 7 ホームページから簡単 WEB 登録(無料)



※メンバーズの方もWEB会員登録が必要です。

<http://www.saf.or.jp> (PCのみ)

## ■サポーター会員

(財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)エフテック／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／金井大道具(株)埼玉りそな銀行／(株)パンフィックアートセンター／アサヒ印刷(株)／FM NACK5／東京電力(株)埼玉支店／東京ガス(株)／JA/JA埼玉県信連／カヤバ システム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや／森平舞台機構(株)／日本データコム(株)／(株)ビルメン／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務ゲレツツ・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング(株)／(株)ショーモン／埼玉スバル自動車(株)／(株)東玉／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター不動産開発(株)／ビストロ やま／ホッカイエムアイシー(株)／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国SPグループ／(有)プラネッツ／関東自動車(株)／日本ピストンリング(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／(株)グリーン企画社／(株)中島運輸／(株)国際ビジネス研究所／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／太平洋セメント(株)／(株)ピー・アンド・イー・ディレクションズ／朝日新聞 伸光堂さいたま販売(株)／丸美屋食品工業(株)／日立キャピタル(株)／ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉建興(株)／(株)日産サテオ埼玉／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／(株)東和銀行／医療法人 顕正会 蓮田病院(株)ウイズネット／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)／(株)エヌテックサービス(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス H21.6.15現在／一部未掲載

【問合せ先】(財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

## 劇場に遊ぶ、劇場で出会う 第2回 【ビストロ やま】

観劇前のわくわくした高揚感のなかのひとつとき、そして観劇のあとの舞台の余韻にひとりながらの1杯のワイン……。本物の芸術にふさわしい、本物の味を愉しめるのが、1階にある[ビストロ やま]。大きくワイドに広がった窓、ゆったりとした空間は、おいしい料理の名脇役。主役はもちろんお料理。“安全・安心・地産地消”を標榜し、シェフの山田正三さんは、「ジュニアベジタブル&フルーツマイスター(野菜のソムリエ)」という肩書きをもち、とことん素材にこだわり、腕をふるう。例えば野菜は地元埼玉を中心にすべて契約農家からの有機野菜。農家の方の名前と笑顔の写真入りのメニューが安全の記し。魚は、手に入れるのが難しいとされている新鮮な鳴門産だ。また、ワインのソムリエもいて、約140種揃ったワインから、お好みのテイストにあわせてアドバイスしてくれる。

旬の素材を生かして、すべて手作りのフランス料理、といっても決して堅苦しくなく、添加物のない美味を気軽に味わえる。メイン料理とともにぜひ食べていただきたいのが、小粋な味の自家製の「玉ねぎのパン」。ほかにも人気メニューがずらり。

最近、小人数のお集まりやパーティーでランチやディナーを愉しみにいらっしゃるお客さまも多いとか。そして、折々にイベントも開催、7月は「鈴木幹 LIVE2009」と題し、ギター演奏によるライブ。8月には、マリンバアンサンブル、マレットによる演奏で、昼は「親子で楽しむティータイムコンサート」、夜はディナーと演奏が楽しめる「サロン・ド・コンサート」がある。(日時、料金等は、HP、電話にてお問い合わせください)



◆ 営業時間:11:30~15:00(ラストオーダー14:00) 17:30~21:30(ラストオーダー20:30)  
◆ 定休日:月曜日(祝日の場合は営業、翌日休み) ◆ TEL:048-854-1170 ◆ <http://www.yamapepe.jp>

